

令和5年度施策評価結果（概要）

【外部評価の判断基準】 A：成果が出ている B：一定の成果が出ている C：成果があまり出していない D：成果が出ない 「-」：評価できない

基本目標・重点項目	R5 外部評価	R5 内部評価	R4 外部評価	専門部会委員からの主なご意見
第4章 健全な行財政運営の確保に向けた取組 （外部評価内訳 A：0 B： 16 C：1 D：0 「-」：0）	B	b	B	・窓口サービスの質向上については、職員側の視点（ES）についても指標化すると、より本質的な質向上につながるのではないか。 ・持続可能な行政運営を行う為にも歳入確保は重要。宿泊税や地方環境税などを導入してはどうか。
基本目標1 良好な生活機能が確保されている都市（まち）				
1-1 多様なライフスタイルに対応した「子育て支援の充実」 （外部評価内訳 A： 14 B：3 C：0 D：0 「-」：0）	A	a	A	・「子育てしやすい＝働きやすい」を実現するために、子育て支援の充実に引き続き尽力してほしい。 ・保育園で様々な事故もある中、子育て支援の量ではなく、質を向上させていくための施策、保育士の処遇の改善と人材の確保が必要。
1-2 2025年問題に対応した「医療・福祉の充実」 （外部評価内訳 A：1 B： 16 C：0 D：0 「-」：0）	B	b	B	・「医療・福祉の充実」にも限界がある。病気にならない、健康寿命を伸ばす取組を強化すべき。 ・若年層への自殺予防対策について、教育現場と連携して一層の強化をお願いしたい。
1-3 自然環境の保全と生活の質の向上を図る「居住環境の充実」 （外部評価内訳 A：1 B： 16 C：0 D：0 「-」：0）	B	b	A	・市民の評価である「居住環境に満足している人の割合」が目標値を上回っている点は良い。 ・公園も多岐にわたって整備されており環境は良いが、山間部における伐採後の植木の推進が必要。
1-4 災害に強く、暮らしを支える「生活基盤の充実」 （外部評価内訳 A： 15 B：2 C：0 D：0 「-」：0）	A	a	A	・防災体制は整っていると感じている。災害に強いまちづくりに向けて引き続き尽力してほしい。 ・防災訓練の実施、企業のBCP計画策定の推進など、防災・減災の意識を高める取組を強化する必要がある。また、災害が起きた際の復興についても、どのようにしていくか検討が必要。
基本目標2 良好な地域社会が形成されている都市（まち）				
2-1 地域に愛着や誇りをもつ「みやぎっ子の育成」 （外部評価内訳 A： 12 B：5 C：0 D：0 「-」：0）	A	a	B	・地域の歴史、文化について、子どもにもっと興味を持ってもらえるためには、地域との連携強化が必要。そのためには、自治会や地域イベントへの積極的な参加や交流等、家族が関わる”仕掛け”を地域で考える必要がある。 ・不登校児童生徒に寄り添った一層の取組をお願いしたい。
2-2 多様で自律性のあるコミュニティを形成する「地域力の向上」 （外部評価内訳 A：0 B： 16 C：1 D：0 「-」：0）	B	b	B	・自治会加入率の低下に歯止めをかけてほしい。若い人たちは自治会が何のために存在し、どのようなメリットがあるのかさえ分からない。 ・「移住センターが関与した移住世帯の3年後の定着率」及び「自治会加入率」が目標値に達していない点が気になる。
2-3 一人一人が尊重され、生き生きと暮らせる「共生社会の確立」 （外部評価内訳 A：1 B： 15 C：1 D：0 「-」：0）	B	b	-	・「人権尊重や男女共同参画」の意識は、年々、市民に浸透してきているように思えるが、「国際交流と多文化共生」に関しては、浸透していないように思えるため、インバウンドを介した交流事業等があると良いのではないかと。
基本目標3 良好な就業環境が確保されている都市（まち）				
3-1 地域や企業ニーズに合った「人材の育成」 （外部評価内訳 A：1 B： 15 C：1 D：0 「-」：0）	B	b	B	・県内就職率アップは大切ではあるが、県外や海外を知ることで、地方間の差を気付くきっかけともなることから、Uターンセミナー等を開催し宮崎に帰ってきたいと思ってもらえるような取組を官民連携で推進することが必要ではないかと。 ・本市の産業別人口では、第三次産業の割合が高いが、併せて3年以内の離職率も高く定着率が悪い。地元企業への就職率を上げることも大事であるが、安定した職場での雇用が「人材育成」に欠かせないと考える。企業や会社の自助努力による給与・雇用条件の改善と見直しが必要。
3-2 若い世代の定着や生産性の向上を図る「雇用の場の創出」 （外部評価内訳 A：0 B： 15 C：2 D：0 「-」：0）	B	b	B	・人材不足や労働力不足は深刻である。官民連携し、外国人労働者拡充の為に施策を推進することが必要ではないかと。 ・今の若い世代が一番大切だと考えるのは、ワークライフバランス。仕事と家庭や遊びの両立ができる会社を求めるとの傾向にある。 ・他県に世界的な半導体メーカーが進出し、好待遇ということもあり、人材の県外流出が懸念される。
基本目標4 魅力ある価値が創出されている都市（まち）				
4-1 交流人口や販路の拡大を図る「ブランド力の向上」 （外部評価内訳 A：1 B：5 C：0 D：0 「-」： 11 ）	-	-	-	・観光消費額については、コロナ禍前以上の実績があるのは素晴らしい。アフターコロナに対応した、攻めの取組を期待している。 ・MICE受入メニューの増加や、行政施設（大淀川学習館、科学技術館等）における観光客目線の施策が必要。また、年間を通して入込客の繁閑差が激しく、青島・ニシタチエリアともに駐車場が不足しているため対応が必要。道の駅フェニックスの来場者を増やす取組が必要。
基本目標5 地域特性に合った社会基盤が確保されている都市（まち）				
5-1 コンパクト化とネットワークの形成による「都市機能の充実」 （外部評価内訳 A：0 B： 15 C：2 D：0 「-」：0）	B	b	B	・観光地の青島駅や運動公園のある木花駅ではICカードが利用できないため、費用面もあるがJRと連携し改善できないかと。 ・公共交通の維持に向けて尽力をお願いしたい。都市機能としての広域公共交通網となれば、主要ターミナルでの動向に加え、モード間の結節の状況を計る必要もあるのではないかと。